

9 研究紀要の作成

9.4 上級問題

次の文は、秋の研究発表会の際に、研究紀要を作成・配布しているある小学校の状況を述べたものです。それを読んで、年度末に作成する研究紀要増補版の内容を検討しましょう。

【背景】

C小学校は地方都市近郊に位置し、学級数6，全校児童数約150名，教職員数13名の小規模校です。昨年度から、学校研究のテーマを「思考力・表現力を育てる授業の創造～ICTを活用した算数科・国語科の授業改善を通して～」と掲げ、3年計画で研究に取り組んでいます。市の研究拠点校として研究指定を受けているほか、P教育財団から2年間の研究助成を受け、日常的にICTを活用できる環境を整えてきました。

C小学校は、以前から学校研究に力を入れており、毎年10月には研究発表会を開催しています。その際、参会者に研究紀要を配布しています。

C小学校の1年間の研究計画と、10月に配布した研究紀要の内容は以下の通りです。

表9-2 C小学校の1年間の研究計画

月	授業研究会関係	主な内容	部会活動
4	第1回授業研究会	研究推進計画の提案	部会発足 部会活動計画の作成
5	指導案検討会 第2回授業研究会	ICT活用研修会	
6	指導案検討会 第3回授業研究会	学力調査	
7	研究授業のまとめ	児童実態調査 ICT活用研修会	1学期部会活動のまとめ
8		学力調査の分析と考察 研究紀要執筆分担の決定	2学期活動計画の見直し
9	指導案検討会 第4回授業研究会	研究発表会指導案検討 研究紀要原稿提出	
10	研究発表会の開催	研究紀要の配布	
11	研究発表会の反省		
12		学力調査の分析と考察	2学期部会活動のまとめ

1	指導案検討会	学力調査・児童実態調査の実施	3学期部会活動の見直し
2	第5回授業研究会	学力調査・児童実態調査の分析・考察	次年度計画案の検討
3		研究の総括	1年間部会活動のまとめ

表 9-3 研究紀要の項目・内容（10月配布）

	項 目	内 容
1	学校の概要	学校の基礎データ 学校教育目標 学校経営計画 学校研究の歴史 児童データ（学力調査等）
2	研究の基本構想	研究主題と設定理由 研究全体構想図 研究組織図 ICT活用の理論 算数科研究構想 国語科研究構想 研究推進計画
3	実践記録	算数科の実践（研究授業の様子と成果・課題） 国語科の実践（研究授業の様子と成果・課題）
4	年間カリキュラム	言語活動カリキュラム ICT活用カリキュラム
5	研究の検証	2学期までの学力調査の結果と考察 2学期に実施した児童実態調査の結果と考察
6	成果と課題	成果と課題・今後の展望（算数科・国語科・研究全体）

研究主任のT教諭は、研究紀要は10月の段階で作成しているため、年度末は作成しなくてもよいと考えていました。しかし、10月の研究発表会や3学期に実施した研究授業のまとめや、年度末に協議した1年間の研究の総括について、十分整理できないまま次年度を迎えることに課題を感じていました。そこでT教諭は、2学期に作成・配布した研究紀要に加えて、年度末に「研究紀要増補版」を作成することにしました。

ここでいう「研究紀要増補版」とは、年度途中で作成した研究紀要には掲載されていないものや、改訂したものを追加して作成する冊子を指します。作成時期は年度末で、配布対象は当該年度の教師と、次年度赴任する教師となります。

【問題】

年度末に作成する研究紀要増補版に掲載すべき内容を考えましょう。

項 目	概 要
(例) 研究発表会における研究授業の記録	10月に実施した研究発表会の研究授業の記録と成果・課題を整理したもの
(例) 言語活動カリキュラム, ICT活用カリキュラムの改訂版	年度当初に作成したカリキュラムを見直し, 次年度にむけて改善したもの

【解答例と解説】

C 小学校が 3 学期に作成する研究紀要増補版に掲載すべき内容には次のような項目が考えられます。

項 目	概 要
(例) 研究発表会当日の研究授業のまとめ	10 月に実施した研究発表会の研究授業の記録と成果・課題を整理したもの
(例) 言語活動カリキュラム, ICT 活用カリキュラムの改訂版	年度当初に作成したカリキュラムを見直し, 次年度にむけて改善したもの
<u>2 月に実施した研究授業のまとめ</u>	2 月に実施した研究授業の記録と成果・課題を整理したもの
<u>学力調査, 児童実態調査の結果と分析</u>	1 年間の単元テストの結果や, 3 学期に実施した学力調査・児童実態調査の結果を分析したもの
<u>部会活動の総括, 研究全体の総括</u>	3 月に実施した部会活動のまとめ 1 年間の研究について協議した内容を整理したもの

2 月に実施した研究授業のまとめ

C 小学校のように 2 学期に研究発表会を開催する学校では, 研究発表会に合わせて, 研究紀要も 2 学期に作成し, 参加者に配布することが多いと思います。そのため, 研究発表会当日の研究授業およびそれ以降の研究授業の記録は, 当然掲載することができません。ですから, 研究が熟す 2・3 学期の実践記録については, ぜひ研究紀要増補版に掲載したいものです。そのためにも研究授業終了後すぐに, 授業者に授業実践レポートを提出してもらうことが大切です。

学力調査, 児童実態調査の結果と分析

10 月の研究紀要には, 2 学期までの学力調査や児童実態調査の結果と分析が掲載されています。そこで増補版には, 1 年間の単元テストの結果と分析, 3 学期に実施した学力調査や児童実態調査の結果と分析などを

掲載するとよいでしょう。

さらに、2学期までの結果と比較することで、児童の学力や実態の変化を検証することができます。データはグラフ化し、変化の様子を視覚的にとらえやすいように工夫しましょう。

部会活動の総括、研究全体の総括

3学期は、1年間の研究活動を振り返る時期です。C小学校には算数部会、国語部会という2つの部会があります。それぞれの部会でどのような成果や課題が明らかになったのかが分かるように、協議した内容を整理して増補版に掲載するとよいでしょう。

また、教職員にアンケートを実施し、研究内容に関する意識（研究で学んだこと、今後の課題など）や、研究の進め方に関する成果と課題（事後協議会の工夫はどうだったか、研究推進計画に無理はなかったかなど）を集約したものを掲載しておけば、次年度の研究推進計画を策定する上で有効に活用できると思われます。

その他の項目

○ 研究発表会当日の研究授業のまとめ

1年間の研究授業の中で最も力を入れるのは、研究発表会当日の研究授業でしょう。多くの学校では、研究発表会終了後、研究授業のまとめを作成すると思いますが、当日配布される研究紀要には掲載されていないため、次年度のメンバーが目にする可能性は低いと考えられます。研究授業の実際や成果・課題を整理したまとめは、次年度のメンバーにとって貴重な資料となります。ぜひ、研究紀要増補版には掲載したいものです。

○ 言語活動カリキュラム、ICT活用カリキュラムの改訂版

10月に配布した研究紀要に掲載されていた言語活動カリキュラム、ICT活用カリキュラムは、年度当初に作成したものです。研究を進めていく中で、改善点が見つかっているはずです。そこで、研究紀要増補版には、それらの改訂版を掲載するとよいでしょう。さらに、改訂の経緯やポイントを簡単に記録しておけば、次年度のメンバーがカリキュラムを作成する際に、貴重な資料として活用できるでしょう。